

2018年、また新しい1年が始まりました。現在会員登録数2,549人さま。ご愛読いただきありがとうございます。本年もどうぞよろしく願いいたします。次号は2月20日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 89

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● 「日産 童話と絵本のグランプリ」受賞作品原画展

当財団主催「第33回 日産 童話と絵本のグランプリ」（平成28年度実施）の入賞作品の原画展を開催しています。3月上旬に予定しています第34回（平成29年度実施）グランプリの発表後は、新しい入賞作品の原画に展示替えします。

日 時：開催中～3月25日（日）＊ただし、国際児童文学館の開館日時

場 所：大阪府立中央図書館 国際児童文学館（東大阪市荒本）

入場料：無料

詳細は→ [http://www.iiclo.or.jp/07\\_com-con/02\\_nissan/index.html](http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html)

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

● 当財団公式 Twitter → [https://twitter.com/IICLO\\_News](https://twitter.com/IICLO_News)

【2】コラム

\*\*\*\*\*

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

\*\*\*\*\*

『ひとりぼっちの教室』 小林深雪・戸森しるこ・吉田桃子・栗沢まり/著

牧村久実/絵 YA!ENTERTAINMENT 講談社 2017年12月

対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：「いじめ」をテーマにした4作品のアンソロジー。「友達なんかいない」(小林)は、自分がかわいいことを自慢に思っている穂花がクラスから無視された経緯が描かれ、「これは加部慎太郎に送る手紙」(戸森)は、主人公の親友である加部のクラスでいじめられている月森が恐喝される事件が描かれ、「転生☆少女」(吉田)は25歳の詩歩が「どうせ私なんて」と言ったとたん、中学二年生に戻っていじめに遭遇する様子が描かれ、「イチヂダンケツ」(栗沢)は、縄跳び大会で、風人がクラスのリーダーの小野寺君に宮田君をのけ者にするように言われる様子が描かれる。

Y：「泣いちゃいそうだよ」のシリーズで人気の小林深雪さんの作品を筆頭に、講談社児童文学新人賞出身の作家3人の作品が並びました。

T：ベテランの小林さんが場を作り、今乗りに乗っている戸森さんがユニークな角度で「いじめ」に迫り、新人の吉田さんと栗沢さんがいじめられている少女と少年の抵抗を正面から描いています。

Y：戸森さんの「これは加部慎太郎に送る手紙」のユニークさをもう少し説明してください。

T：主人公好都(すいと)の立ち位置がユニーク。好都は親友である加部慎太郎のクラスのいじめや加部のいじめへの関わりについて知っていくという立場で、これまでなかなかこの立場からの作品はなかったように思います。当事者を見る人の視点から描くという手法がデビュー作の『ぼくたちのリアル』とも重なり、戸森さんらしい。

Y：「いじめ」だけを描くのではなく、好都の心の成長が読み取れるところが、作品に幅を持たせていると思いました。「転生☆少女」は大人の記憶がある中学生を主人公にしたことで、中学生時代を客観的に見る目が見えた点がおもしろかったです。

T：「いじめ」をテーマにした作品は多く書かれていますが、アンソロジーという読みやすい形で出版された、とても充実した本だと思います。

Y：どの作品も、ちょうど中学生が持つ大人への不信感が描かれていて読者の共感を得るのではないかと思います。そして、いじめっ子がいじめられるようになる様子、いじめる側の論理、いじめられる側の抵抗やプライドなど、「いじめ」が様々な角度から描かれている点に共感しました。

\* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長(T)です。

\*\*\*\*\*

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

\*\*\*\*\*

第29回「氷河鼠の毛皮」

狩られるものたちの反乱

前回までに取り上げた「シグナルとシグナレス」(NO.88、第28回)、「月夜のでんしんばしら」(NO.86,87、第26,27回)では、いずれも「鉄道」が作品の重要なキーワードとなっていました。

〈ベーリング市まで続く電柱の列〉とは、童話集『注文の多い料理店』新刊案内に記された言葉ですが、さらに鉄道で想起されるのが、12月26日夜8

時、〈ベーリング行の列車に乗ってイーハトヴを発った人たちが、どんな眼にあったか〉を書き留めた本作「氷河鼠の毛皮」です。

極北の都市へ向かう最大急行には、豪華な、あるいは偽物の毛皮を着た人、また帆布のみを着ている船乗り風の若者、北極狐のようにすました痩せた赤ひげの人などが乗り合わせていました。なかでも赤ら顔で肥ったタイチは、金の指環をはめて10連発の鉄砲を持ち、ラッコ、ビーバー、黒狐、氷河鼠の毛皮を贅沢にあしらったいでたちで、たった一人で黒狐の毛皮900枚を持って来てみせるという賭けをしてやってきたのでした。

事件は、夜が明けて東側の窓がまばゆく真っ白に光ったときに起こります。汽車が急停車し、白熊や雪狐のようなすさまじい顔つきの男たちが20人ばかり、ピストルを持って車内になだれ込んできたのです。タイチは毛皮の乱獲・収奪によって連れ去られそうになりますが、船乗りらしき若者がにわかに飛びあがり、白熊側のスパイとして乗り込んでいた赤ひげの男を捕えてこう言い放ちます。

〈おい、熊ども。きさまらのしたことは尤もだ。けれどもなおれたちだって仕方ない。生きているにはきものも着なけあいけないんだ。おまえたちが魚をとるようなもんだぜ。けれどもあんまり無法なことはこれから気を付けるように云うから今度はゆるして呉れ。〉

かくしてタイチは解放され、襲撃者は去り、汽車はまた動き出します。

〈アメリカの西部劇〉(岡村民夫) さながらの展開の一方で、他作品にも見られる〈生命を収奪する者と収奪される者との対立の構図〉(牧野立雄)があると言われます。その関係性の描かれ方は必ずしも一様ではありませんが、人間によって収奪され続ける(狩られ続ける)者たちが起こした反乱劇といえそうです。(ペ吉)

(本文の引用は、新潮文庫版『ポラーノの広場』によりました。)

\*\*\*\*\*

### 《3》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 89

\*\*\*\*\*

その11 さまざまなご質問にお答えします(7) おはなし会について

質問：絵本を持つ手は、縦書きは左、横書きは右と聞きましたが、利き手でない手で持つと絵本がぐらぐらします。

縦書きと横書きで持ち手を変えるのは、ページをめくる手が画面を邪魔しないためです。縦書きの時に左手で持つと、自分の右から左にページをめくるので、右手でページを持って手元から左方向にページをめくることができます。

ところが、縦書きの時に右手で持つと、右端まで左手を伸ばしてページをめくることになり、大きな絵本ではかなり無理をして手を伸ばさなければならず、その手が画面を横切らないようにするのはなかなか至難の業です。このことは横書きの場合も同じです。

とはいえ、一番大切なことは、四角い画面がまっすぐ安定していること、画面が手で邪魔されないこと、ページをめくる速さが調節できることなので、無理をして手がぶるぶる震えたり、ぎこちないページのめくり方になってしまうのでは、子どもたちは絵本を楽しむことができません。

まずは、脇をしっかり締めることによって、腕を安定させることが大切です。ダンベルで毎日鍛えているという人に会ったこともあります。私としては、無理をしすぎず、絵本の画面をしっかり見せる、リズムをつけてページをめくるという基本を頭に置いて、自分のできる範囲で工夫をすればいいと思います。(本メルマガ NO. 28 参照)

\* 次号は「その 11 さまざまなご質問にお答えします (8)」の予定です。  
ぜひ、ご質問やご意見をお待ちしております。(Y)

\*\*\*\*\*

《4》 行って来ました!

\*\*\*\*\*

あべのハルカス美術館で2月5日まで開催されている「ジブリの立体建造物展」に行ってきました。1985年に設立されたスタジオジブリの作品「風の谷のナウシカ」から「思い出のマーニー」(2014年)までの背景画や美術ボード、美術設定などの製作資料約450点と代表作の立体模型が、8つのテーマに分けて展示されています。

作品ごとに、建造物やその内部、舞台となる場所の風景などの絵がずらりと並びます。宮崎駿監督直筆の水彩で描かれたイメージボードは美しく、細かく書き込まれた設定も読むことができます。展示の監修者である建築家の藤森照信さんによって、日本や外国の実際の建築物になぞらえて、構造や技法、歴史などが詳しく解説されています。ハウルの動く城を含むどの建造物も、構造的にしっかりと設定されていることに驚きました。

「借りぐらしのアリエッティ」の床下の家や、「千と千尋の神隠し」の油屋などの立体模型は、中を覗き込んだり、建物の裏側までじっくり見て、映画を思い出したり、絵と見比べてたりしながら楽しみました。「となりのトトロ」の和風住宅に洋館が合わさった家の間取りは、私が子どもの頃遊んだ田舎の祖母の家を思い出してとても懐かしくなりました。

展示を見ることによって、作品の背景にある自然や街並みや時代がいかに現実の風景と結びつけられるかということがわかりました。ジブリのアニメーションの空想世界は、確かなリアリティがあるからこそ、キャラクターが活躍できるのだと思いました。(K)

---

### 【3】全国のイベント紹介

---

#### ● 大阪府子ども文庫連絡会 公開講座

「やっぱり図書館が大事Part26 図書館でさがそう『未来へのとびら』」

講 師：永利和則(福岡女子短期大学特任教授・前福岡県小郡市立図書館長)

日 時：2月13日(火) 午前10時～12時 講演会 午後1時～3時 交流会

会 場：大阪市立中央図書館 5階会議室（大阪市西区北堀江）  
定 員：250人 交流会は60人（当日先着順、申込み不要）  
参加費：無料 資料費：100円  
主 催：大阪府子ども文庫連絡会 共 催：／大阪市立中央図書館

● 学校図書館問題研究会 近畿ブロック集会

(1)「大阪府豊中市立図書館の学校図書館支援について」

報告者：内川育子（豊中市立岡町図書館 団体貸出担当）

日 時：3月3日（土）午後2時～4時30分

会 場：豊中市立岡町図書館（豊中市岡町北）

(2)「大阪府箕面市立小学校図書館の実践について」

報告者：箕面市の学校司書

日 時：3月4日（日）午前9時30分～12時

会 場：箕面市立西南小学校図書館（箕面市瀬川）

資料代：会員外は有料

申込み：必要

主 催：学校図書館問題研究会大阪支部

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

---

#### 【4】プレゼント

---

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『ひとりぼっちの教室』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガNO.89 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想 をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は2月12日(月)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

当然ながら、今年いただいた年賀状は少なかった。当方が喪中ハガキを出さなかった方と営業用の他に、数枚、そうと知りながらくださった賀状があった。元旦に、その人を思い浮かべながら賀状を読むのは楽しいことだ。

そうした素直な気持ちからなのだろう、近頃喪中ハガキに「皆さまからの年賀状は例年どおりお送りください。」と添えられているのがある。これをお互いに受け取れば、年賀状も送り合うのだろうか……。(A)

---

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメルマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

[http://www.iiclo.or.jp/m1\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html) パソコンからどうぞ

- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

---

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>  
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内  
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp

---